

2014年4月7日(月曜日)

食品産業新聞

ヒックス
サ
ロジスティクス

自社トラック整備工場を開所

滑川営業所も改装



食品専門物流企業のアサヒロジスティクス(埼玉県嵐山町)は3月28日、埼玉県滑川町で、滑川営業所を改装するとともに、グループのトラック整備会社、アサヒオートサービス

滑川工場を新設した。同日、開所式が開催された。写真。

これまで同所に営業所を保有しており、事務所と冷蔵庫を備えていたが、近隣の大型センターに冷蔵施設は集約。空いたスペースに、自前のトラック整備工場を新設(従来埼玉・小川町にあった施設も移設)し、

今後は自社車両の整備はもちろん、民間車検場として、外部のトラック・乗用車の整備も受託する方針だとい

また、燃料(軽油)の貯蔵量は、従来の30㎥から100㎥に増設。同社全体で240㎥となり、災害等、有事に全社保有721台のトラックを10日間稼働できる能力を備えられるようになった。

ちなみに、滑川営業所に所属するトラックの台数は73台、すべて冷凍車で、同社の営業所として最多だという。

開所式にあたり、あいさつした横塚元樹社長は、「物流業を取り巻く環境は厳しく、ドライバー不足、燃料高騰、消費税増税など見舞われているが、当社はまた成長しており、ドライバー人材不足等、深刻な状況に見舞われてはいない。環境が悪くても知恵を揮うとともに人を重視する。人財の考え方で取り組み、お客様に対し絶対に迷惑をかけるないと取り組んでいる。関東甲信越や東北、外食、CVS、SM、メーカー様など、約1万店舗に食品を配送し、何百万人という方々の食に直結した業務を行っている。何があっても、食品・食材をお届けする責務を負っていることから、今回のアサヒオートサービス社の工場開設につながった。当社の配送トラックが絶対に止まることがないよう、止まってからで



横塚社長

はなく、止まる前にメンテナンスするところで、ソフト・ハード両面での充実を図りたい」など述べた。

また、横塚正秋会長は「配送トラックを24時間365日動かすということは、壊れてから直してはダメ。当社がかつて苦しい時代、クルマ(トラック)の寿命は5年6カ月だった。外注で整備をお願いしていたが、修繕費は嵩み、燃費もよくなかった。路上故障でお客様にご迷惑をおかけしたこともあった。現在では、自社工場における整備でクルマの寿命は10年に伸び、ほとんど路上故障もない状態になっている。これはお客様、ドライバーともにメリットで、当社も費用でメリットがある」など述べた。